

2019年3月

名古屋市立春田幼稚園長

平手 咲子

平成30年度 学校評価報告

2月、保護者の皆様に「幼稚園教育に関するアンケート」の結果報告を行いました。また、第2回学校評議員会にて学校評議員の皆様に、第6回PTA委員会にて役員の方々に、アンケート結果の2年間の比較グラフを用いて報告し、ご意見をいただきました。

貴重なご意見を次年度の園運営に生かしていこうと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

保護者回答率77% < 1:そう思う 2:だいたいそう思う 3:あまりそうは思わない 4:思わない >

1 本園の教育について

アンケート結果を受けて

・「お子さんは思ったことや困ったことを先生や友達に伝えようとしていますか」の問いに対する結果では、昨年度より<そう思う>が10%増えました。子どもが心を動かし伝えたい思いが膨らむ生活を今後もつくり出していきたいと思います。

・「幼稚園は子どもが意欲的に遊ぶことができるような遊具や教材を工夫していると思いますか」の問いに対する結果からは、子どもが“触ってみたい”“見てみたい”などと心を動かす教材の工夫や、“やってみたい”と動き出せるような雰囲気づくりを行っていきたいと思います。

・「幼稚園の子育て支援に満足していますか」の問いに対する結果からは、昨年度より<そう思う>が増えましたが、夏季休業中の園庭開放は暑さが厳しいというご意見もありましたので、参考にしていきたいと思います。

<学校関係者によるご意見>

- アンケート項目の全てにおいて昨年度よりも「そう思う」が増加していることは評価できる。
- 自分の思いを相手に伝えるということはなかなか難しいことだが、今後もしっかり進めてほしい。
- 幼稚園で自分の話を聞いてもらえたという経験をしている子は、学校に行ってから自信をもって自分の思いや考えを言えるようになっている。

2 保護者の方と共に行う教育活動について

アンケート結果を受けて

・お子さんの成長は、家庭と園とが互いに協力することで一層促されます。直接、保護者の方とお子さんの様子を話すことができる時間を大切にしていきたいと思います。

<学校関係者によるご意見>

- おたよりなどを用いて、幼稚園で大事にしていることを伝える努力をしていることがうかがえる。結果につながっている。続けてほしい。
- 幼児期は、家庭での教育が特に大事だと思う。今は社会的に難しいことも多く、家庭だけでは教育が進まない。しかし、園や学校がすることと家庭がすべきことは違う。そこを明確にするためにも、家庭の教育力を高めることができるよう、保護者と地域と幼稚園とで共に頑張ってもらいたい。

3 幼稚園の努力目標に対する取り組みについて

アンケート結果を受けて

・「お子さんは入園・進級当初に比べ、親しい大人や好きな友達の言葉に耳を傾けている」の問いに対する結果では、昨年度より「<そう思う>」が増えています。今後も自分の思いを伝え、受け止められる経験を積み重ねていくことができるよう、指導を継続していきたいと思えます。

<学校関係者によるご意見>

○幼稚園が2年間努力目標にしている「伝え合う喜びを味わう幼児の育成」について。中学校でも「傾聴」ということを大事にしており、園が取り組んでいるテーマはとても大切なことである。

○スマートフォンの普及などで家庭内の会話が減少している。人の話を伝え、聞く力が付いていない小学生もいる。

家庭内の会話が少ない子どもの中には、暴言を吐いたり嫌がらせの手紙を送ったりする姿も見られる。思いを伝える、聞くということ、特に聞くということを大事にしてほしい。

次年度に向けて

○学校努力点「伝え合う喜びを味わう幼児の育成」について、評価を得ることができた。2年継続の努力目標として取り組み、教師の援助や環境の構成について分かったことがあるので、次年度以降の保育にも生かしていく。

○重点目標に掲げた「体験を豊かに」について、30年度に取り組んだ高校生との交流や地域老人会の方との交流を次年度も行い、成果と課題を見出す。